

| | 月 | | 火 | | 水 | | 木 | | 金 | | |
|-------------|-------------|---------------|-----------------------------|----------------------|-----------------------------------|--------------------------|-------------------------------|--------------------------|-----------------|-----|------|
| | AM | PM | AM | PM | AM | PM | AM | PM | AM | PM | |
| 総合診療 | 2診 | | 総合診療 廣西 | 糖尿外来 河井 | 総合診療 廣西 | | 総合診療・センター長 (認知症センター) 廣西 | 総合診療 廣西 | 総合診療(循環器) 羽野 | | |
| | 3診 | 糖尿外来 河井 | | 循環器 榎野 | 総合診療(循環器) 羽野 | 泌尿器外来 稲垣(武) (2-4週) | 肝臓 佐藤 | | | | |
| | 4診 | 呼吸器 奥田 | 皮膚科 (奇数週) 神人 (偶数週) 鏡山 | | 脳神経内科 中西 | 脳神経内科 中西 | | リウマチ膠原病 応援医師 (第2週) | | | |
| | 新患5診 | 東裏 | | 横山 | | 応援医師 | | 河井 | 奥田 | | |
| | 外科診 | | | | | | | 櫻井 【第3週を除く】 | | | |
| 脊椎ケアセンター | 6診 | 脳神経外科 大岩 | | 脳神経外科 上野 【第1週】 | 脳神経外科 大岩 | 脳神経外科 大岩 | | | 脳神経外科 大岩 | | |
| | 7診 | 整形外科 延與 | | 整形外科 中川 | | 骨粗鬆症外来 寺口 | 整形外科 延與 | | 整形外科 中川 | | |
| | 8診 | 整形外科 米良(好) | | 整形外科 寺口 | | 整形外科 北山 | 整形外科 米良(好) | | 整形外科 北山 | | |
| 眼科 | 白井 (しらい) | 佐々木 【奇数週】 | 白井 【偶数週】 | 白井 (しらい) | 雑賀 岡田 【第1週】 【第3週】 (眼科新患も含む) | 佐々木 | 子ども外来 白井 | 高田 | 白井 (うすい) | 佐々木 | 術前外来 |
| | 高田 | | | 黄斑外来 (白井うすい) | 佐々木 | 白井 (うすい) | | | | | |
| 小児科 | 青柳 | | 樋口 | | 青柳 | 青柳 | 青柳 | 青柳 | 青柳 | | |
| リハビリテーション科 | 隅谷 | | 隅谷 | | 隅谷 | | 隅谷 | | 隅谷 | | |
| | 風呂谷 | | 風呂谷 | | 風呂谷 | | 風呂谷 | | 風呂谷 | | |
| 認知症疾患医療センター | | 大岩 | | | | 廣西 | 廣西 | | | 中西 | |

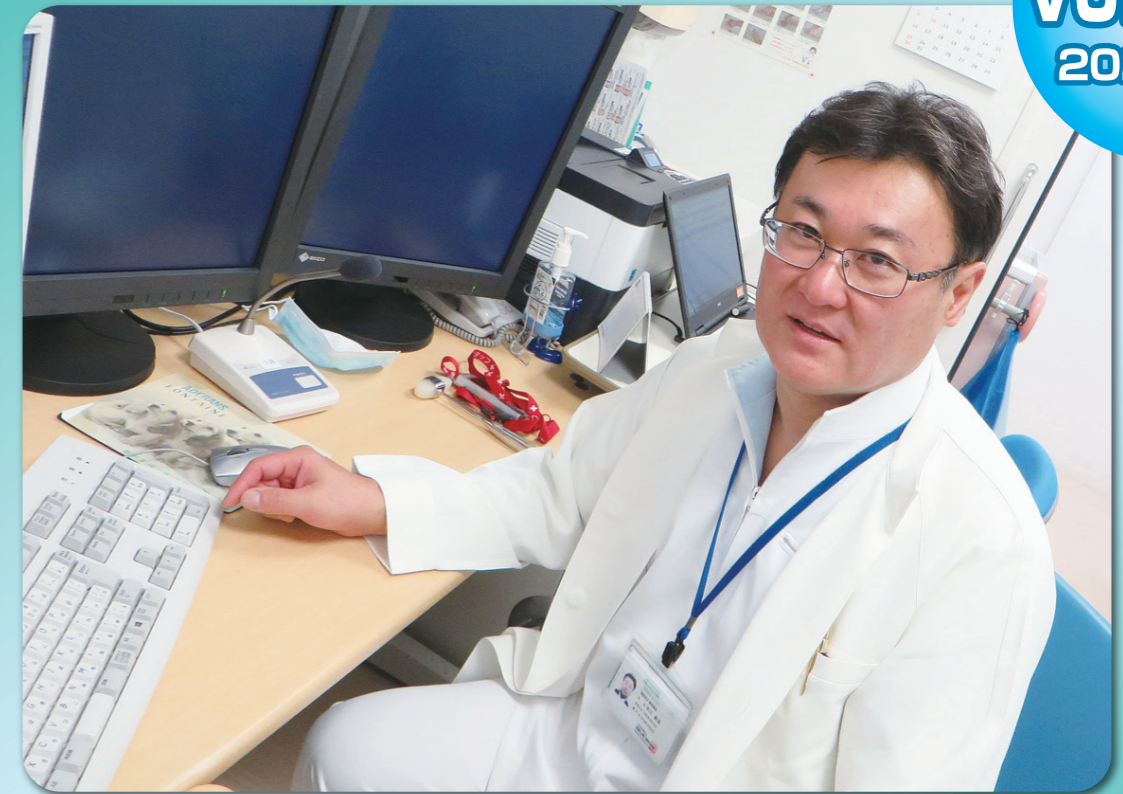
診察受付/月曜~金曜:午前8時45分~11時30分 ※第1週の水曜日午後は、加藤医師が救急対応 令和2年7月1日現在



あじさい



vol.33
2020.夏号



「かるて師匠の健康高座」

分院長・内科教授 廣西昌也

今回も大川亭可流亭(おおかわてい かるて) 医師と、医療系志望の高校生、北紀子(きた のりこ) ちゃんがお話しています。紀子ちゃんが新型コロナウイルスのことを可流亭(かるて) 医師に尋ねています。

紀子:先生、ウイルスってこんなに怖いですね。どうしたらウイルスに移らずにすみますか?

可流亭:新型コロナウイルスは飛沫感染と接触感染で移るとされてます。飛沫感染は、くしゃみや咳をしたときに、喉からウイルスが飛び散って別の人の入ってしまうこと。接触感染はウイルスが机とか椅子、取っ手なんかについてしまって、それに触れてもらってしまうことです。テレビで人との距離を取らなさいっていつてもありますが、あれは飛沫感染を予防するための話。

紀子:ウイルスって目に見えないでしょ? だったらどこにあるかわからないからとても怖い。マスクをしてたら大丈夫かな?

可流亭:マスクは飛び散ったウイルスが鼻や口に入らないようにするという意味ではある程度効果があるし、患者さんがウイルスを飛び散らさないようにするためにも是非するべきだよ。

紀子:じゃあマスクさえすれば大丈夫なの?

可流亭:過信は禁物だよ。マスクの外側を触ってしまうと外にくっついたウイルスが手についてしまうかもしれないし、その手で目や鼻、あるいは食べ物を触ると感染のリスクになってしまう。

紀子:えー! そうなんだ。じゃあどうしたらいいの?

可流亭:感染する入り口は粘膜が外にむき出しになっているところだといつも考えておくといいよ。つまり、目と鼻と口だね。ウイルスで汚れた手で目をこすったり、鼻ほじりをしたり、手づかみで食べたりするのはすごく危険! だからテレビでも手を洗って言ってらっしゃるでしょ。メガネはくしゃみや咳で飛び散ったウイルスが目に入るリスクを少し減らしてくれるかもしれないね。

紀子:私、花粉症があってすぐ目をこすってしまうんだけど、危ないのね。弟はいつも鼻ほじりをしてるから、ダメだって言うておきます。



新任ドクター紹介



准教授
眼科
白井 久美



講師
整形外科
延與 良夫



学内助教
内科
横山 真央

【掲載内容】

- ・新任ドクターの紹介
- ・看護副部長就任のご挨拶
- ・着任のご挨拶
- ・PT、OT、STの違い
- ・外来診療医担当表
- ・かるて師匠の健康高座



よろしくお願ひします。

【お知らせ】

- ・令和2年7月より、眼科に白井久美准教授、整形外科に延與良夫講師、内科に横山真央学内助教が着任しました。
- ・令和2年6月末で、整形外科の籠谷良平助教が退職しました。
- ・令和2年7月より、内科の田中篤准教授、眼科の石川伸之講師が和歌山県立医科大学本院勤務になりました。
- ・次回の紀北分院通信「あじさい」秋号は10月発行です。

和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 分院長 廣西昌也

〒649-7113 和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺219 TEL0736-22-0066(代) FAX0736-22-2579

ホームページアドレス <http://www.wakayama-med.ac.jp/med/bun-in/index.html>

2020年7月発行



■ 就任のごあいさつ

看護副部長兼2階病棟看護師長
松岡 淑子

令和2年4月1日付けで看護副部長を拝命いたしました。

2月以降の新型コロナウイルス感染症の流行により、例年とは違った空気が流れる中での新年度のスタートとなりました。そのような中、看護部の管理をしていくための役割を担う職位の重責を感じ、よりよい医療の提供のために多職種との連携を図り、地域の皆様に信頼される看護師の育成に努めていきたいと決意を新たにしました。当院では、クリニカルラダーという看護実践に必要な能力を段階的に評価する教育システムを活用しています。看護実践能力は、「ニーズをとらえる力」「ケアする力」「協働する力」「意思決定を支える力」の4つの力で構成されています。これらの力を密接に関連させながら、患者さんの安心と安全を守り、寄り添う看護を提供するために、看護の質の向上に向けて研鑽を重ねるよう指導してまいります。

次に、少子高齢化による地域包括ケアシステムの構築がうたわれる中、地域住民の皆様が住み慣れた環境で安心して生活できるための支援をしなければならないと思っています。当院では、認知症疾患医療センターを併設しており、認知症患者さんの治療や対応の仕方などについて専門的なサポートを行っています。院内の多数の職員が認知症サポーターでもあります。また、整形外科では脊椎疾患における低侵襲手術を積極的に行っています。そのほか白内障手術、糖尿病や心不全等、慢性疾患の治療も継続的に行っています。これらを踏まえて、紀北分院で診てもらってよかったと言ってもらえるような医療の提供を目指していきます。そして、生活と医療の両面を見つめ、健康な暮らしを支える看護を実践していくことをお約束します。そのためにも地域医療機関、訪問看護ステーション、介護施設、行政とのきめ細かい連携が必要だと感じております。

皆様のご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



■ 着任のご挨拶



眼科講師
高田 幸尚

4月から紀北分院眼科に着任致しました、高田幸尚と申します。縁あって和歌山県立医大眼科学教室に入局、大学勤務を経て（途中で済生会有田病院へ2年間出向）、今回紀北分院へ赴任することになりました。入局とともに大学院へ入学し、緑内障点眼薬による薬剤性角膜上皮障害という基礎研究のテーマに取り組んできました。基礎研究をきっかけに緑内障に興味をもち、近年は緑内障の臨床研究、外来診療、手術に取り組んできました。今回、緑内障の説明と私の緑内障治療に対する取り組みについて述べさせて頂こうかと思います。

まず、緑内障とは視神経が障害される進行性の疾患であり、40歳以上の5%にみられる疾患です。中途失明の原因の第一位であり（第二位は糖尿病網膜症）、眼圧を下げるのが唯一の治療です。緑内障は進行を完全には止めることができない疾患ですが、初期の段階では視野障害に気づきにくく、自分で視野異常に気付いた頃

には病状はかなり進んでしまっていることが多い疾患でもあります。以前は視野障害（＝機能異常）が出てから緑内障治療（点眼薬）が開始されていましたが、昨今では視神経乳頭の変化など形態異常がみられると視野障害がなくとも緑内障治療を開始することが多くなりました。

緑内障治療は生涯に渡り必要であり、長期化することが予想されます。緑内障治療の第一歩は点眼薬治療ですが、様々な副作用が起こることがあります。時には治療継続が困難な程の重篤な副作用がみられることもあります。また、点眼治療を開始して1年後におよそ4割は通院を中断してしまっていることがわかっております。そのため、私は普段の外来診療において、緑内障治療の効果（眼圧下降）を維持しながら、治療を継続できるように副作用を軽減することをモットーに行っています（完全に副作用を無くすことはできません）。

最後になりましたが、今後紀北地域の緑内障患者さんで、途中で治療を中断される方や、中途失明となってしまう方が少しでも減るように微力ながらも貢献していきたいと考えております。

■ 着任のご挨拶



リハビリテーション科
学内助教
風呂谷 容平

はじめまして、本年4月から紀北分院勤務となりましたリハビリテーション科医師の風呂谷容平です。リハビリテーション科では医学的管理を行った上で外来や入院での運動療法、認知機能訓練、装具外来、嚥下機能検査などのいわゆるリハビリ治療を行っています。

超高齢化社会に伴い、現在の医療は平均寿命（いわゆる寿命）と健康寿命（健康に問題なく普通に日常生活を送れる状態）に隔たりが出てきています。昔の医療は命を救うことが主流でしたが、命を救うことが達成されると、次にはその後の生活に対する不安が患者・ご家族様からよく聞かれます。「歩けるようになりますか?」「トイレに行くことができるようになりますか?」といった言葉からも、現在の医療は次の段階として「元気に長生きする」ことが求められていることがわかります。リハビリ治療は、身体機能の回復、障害の克服、病気の発症予防を行うことができ、持病をお持ちの方でも安心して受けることのできる治療方法となっています。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、特に高齢者の方々は閉じこもりがちになり、「歩きにくくなった」「よく疲れるようになった」「物忘れが多くなった」などの症状がでてきています。当院での外来リハビリ治療や短期間の入院強化リハビリ治療など、ご希望がございましたら、一度当科外来受診をおすすめします。当院の他科や和歌山県立医科大学附属病院、関連病院とも連携し、患者様のニーズにあったリハビリ治療を提案させていただきますので、お気軽に受診していただければ幸いです。「運動は万能薬」を合い言葉に地域医療の発展に貢献していきたいと思っています。今後とも宜しくお願い致します。

■ 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士とは？

リハビリテーション科 作業療法士
鈴木 浩之

理学療法士（Physical Therapist ; PT）は、日常生活での基本動作と言われる、「寝返り」「起き上がり」「立ち上がり」「歩行」などの動作を自分でできるようになるため、運動療法をはじめとして、電気・温熱・光線などといった物理療法を用いて、身体の機能回復を図り、自立した日常生活が送れるようにサポートする専門家です。

作業療法士（Occupational Therapist ; OT）は、日常生活を自立して行えるようにするための専門家です。「入浴」「更衣」「段差昇降」などの日常生活動作、「炊事」「洗濯」などといった家事動作、仕事・趣味活動など、本人が必要となる動作を自立して行えるようにサポートする専門家です。また、作業療法士はうつ病などをはじめとする精神疾患の患者さんも対象としている点が、理学療法士と異なります。

言語聴覚士（Speech Therapist ; ST）は、病気や障害により「話す」「聞く」「食べる」という活動がうまく出来ない方に対して、機能の評価や身体機能の向上を図り、かつ代わりの手段となるものを活用して、それらの活動が自分で行えるようにサポートする専門家です。

紀北分院では、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が配置されており、病気や障害により日常生活がうまく送れなくなった患者さんに対し、日々リハビリテーションを実施しています。また、リハビリテーション科専門医も常勤しております。専門的な知識をもってサポートさせて頂くことが出来ますので、何かお困りのことなどございましたら、お気軽にお問い合わせください。

